

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもと づく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 医療法人財団 **東京勤労者医療会** 1部60円

〒151—0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1—30—7

TEL (3404) 7661

E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com

友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

戦後64年 戦争と平和 医療人の想い

私たちは平和を希求します



戦争の傷跡が残る 郷里沖縄と9条

眼科 長嶺利枝子

上京して34年、幼い日に目にし耳にした「戦争の記憶」が、年を重ねるに連れ思い出されます。

私は戦争終結11年後に、沖縄戦最後の戦闘地本島南部の「平和の礎」「ひめゆりの塔」などが建立されている

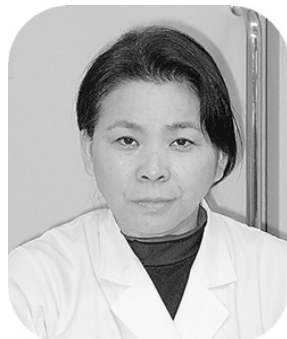
戦後64年目の夏を迎え、戦争と平和を考える季節が来ました。医療は平和があってこそ成り立ちます。地上戦の痕跡が残る沖縄出身の職員と、平和行動に参加した青年職員が、平和実現への想いを語ります。

「まぶにの丘」から車で30分ほどの村で生まれました。

悲慘な地上戦の痕跡は、戦争終結から20年経ってもなお幼い記憶に焼き付くほど、まざりまざりと残されています。た。那覇の街角に行け

ば、包帯を巻いた片腕・片足を失った人が立っていたり、正気を無くしたアメリカ兵が村に出没したり、住民の避難壕だった場所に行けば、たくさんの頭蓋

きれいな景色と戦争が同居する沖縄
職員からの「基地建設反対」寄せ書きを佐藤さんが、辺野古沖の囲いに貼りました。



長嶺利枝子さん

骨が野ざらしにされていました。慰霊の地に残されてた。

いた頭蓋骨の光景を目にした以後初めて、イラク戦争に自衛隊が派兵されま

後、死者を踏みつけている錯覚にとらわれ、私は長くその地を踏みなくなりました。どうしても帰らなければ……との、強い気持ちに駆られて7年ぶりに帰った戦後50年の節目の年、足下からの体の震

した。あの時、ベトナム戦争当時出撃基地となった沖縄をしきりと思い出し、地上戦の最中を生き抜き、7人の子を育て上げた母を思い、イラクの人々を思い続けていました。日本が引き起こした「戦

広島・沖縄で感じた
事、私に出来ること

医事課 佐藤真由美

08 原水禁大会広島と
沖繩の辺野古基地闘争
支援行動に参加しまし
た。そこでいちばん印
象に残ったのは、戦争
の傷跡が残った場所
で、実際に戦争を体験
した方のお話を聞いた
ことです。

街を苦しめています。
戦争に対して無知で無
関心な事は許されない
と思います。

もうひとつ印象に残
ったことは、そこに平
和を守る闘いがあり、
自分と同じ青年が平和
について真

ればと思います。平和を守るために、戦争とどんなもので、どれだけの犠牲を出したか、それを同世代に伝えたい。そして、一緒に平和行動ができる仲間が全国にたくさんいる事も伝えたい。そんな気持ちで今年の原水禁大会に、職場の同世代の仲間を送り出し、平和の輪を広げようと思います。

広島で聞いた想像を、剣に考え、
 絶するような被爆体 行動を起ここ
 験、沖繩で知った暮ら している姿
 と平和を破壊する米軍 です。
 基地の存在や悲惨な地 自分も何
 上戦の真相など、今も かしらの行
 なお戦争の被害が人と 動をしなけ

総選挙の投票も平和実現の一步

核廃絶には消極的、自衛隊の海外派兵と、憲法改悪には熱心な、世界の平和に逆行する政治、選挙での投票も平和実現の

を今度の総選挙で変えましよう。選挙での投票も平和実現の

（編集部）

(編集部)



佐藤真由美さん



手術台

天を衝く
立葵、次々と吹き出す
ノウゼンカ
ヅラ、凜と
して揺るが
ない百日

紅、夏の花はみなたくましい。暑さにバテバテな人間さまをあざ笑っているようだ。今年も鎮魂の8月がやってきた。原爆忌は暑さがつきものの、誰にもあの日の灼熱の地獄を思い出させる▼ところが今年の8月はずっと暑い。総選挙がある。しかも長年の自民党支配が自壊しはじめ、政権交代の可能性を誰もが感じている今年の夏だけは、一人ひとりが気候より熱く燃え行動しなくてはならない。それも風を読んで、うまく風に乗る…という自民党派閥の真似事や、威勢がよさそうだからと乗ってしまう小泉郵政選挙の二の舞でも駄目である▼私たちの生活とくらし、医療・福祉などを本気で前進させるための機会にしなければならぬ。それを約束する人や党に投票するだけではなく、周りの多くの人にもお願いしたいと歴史を動かせない。こんなことを読むだけでも暑い！

って!?　だがこの8月だけはそうも言うてられない。(ま)